

今回お話を伺ったのは >>>

明治大学

図書館
総合サービス課
畑野 繭子 様

御茶ノ水の中心に位置し、おしゃれな校舎がそびえ立つ明治大学。図書館もとても素敵なアレンジで、多くの学生で賑わっております。

LexisNexis Academicのご利用状況をお聞かせください。

「今年に入ってから随分と利用が増えました。今年は、いわゆるレポート作成時期である6月と11月には500～600サーチになりました。」

学生への利用促進、指導はどのように行われていますか？

「ゼミツアー（図書館内ツアー）を行っております。参加希望は4、5、6月に集中しますが基本的に1年中行っております。その際、海外の新聞情報を調べたいという利用者に『外部データベースでAcademicがありますよ』と紹介しております。また春と秋に『情報検索ガイダンス』をおこなっております。」

学生の内に英語データベースでリサーチを行うことが、その学生にとって将来的にどのような利点があるとおもわれますか？

「そうですね、学生時代に英語のデータベースに触れなければ、触れないままで過ごしていってしまう可能性が高いでしょう。海外のデータベースに多少でも接して慣れ親しんでいると、将来の実務に役立つ、またグローバルな視点で見える力を得ることが出来ると思います。これは国内外関係ないですが、ネットサーフィンで事を済ます学生が多くなってきております。信頼できるソースとは何か、有償なものにはどのような情報があるのか見極める力を培って欲しいですね。」

学生の興味度・反応はいかがでしょう？

「レクシスの存在さえ知らない学生が多いのですが、実際に自分でアクセスして試してみると、大量の情報が一時に出てくるのには、とても驚いております。ニュース検索が主な用途ですが、たくさんの新聞を幅広く横断検索できるのは非常に便利ようです。初めてですと英語の画面に躊躇する方もいますが、1度使うと検索機能自体は難しく無いので2、3度と続けて使う方が多いですね。」

具体的な活用例がありましたら教えてください。

「『情報検索ガイダンス』では、海外の新聞というテーマでタイムリーな記事を検索させています。また、なるべく原紙と比較をさせるようにしています。画面から出るテキストデータだけでは実際の紙媒体がどのようなものであるかという認識が薄れてしまうためです。」

利用が多いのはどの学部でしょうか？

「明確なところは分かりませんが、ニュース検索では一般教養がメインでしょうか。企業情報などは経済関係の学部でニーズがあるようです。」

冊子体と電子体との住み分けは可能と思われますか？

「可能だと思っております。紙媒体はブラウジングができたり独自のよい特徴はありますから。またその反面、紙媒体自体がデータベースから得られるものとあまり代わらない場合、差し替えていく傾向もあります。」

Academicを選ばれたポイントとお気に入りのコンテンツは何でしょうか？

「世界各国の新聞情報収録が1番のポイントです。あとは、法律情報のフルデータ収録。定額制であること。よく利用しているコンテンツは、やはり世界中の新聞です。」

導入されました時期とAcademicの利用料金のご負担は？

「2000年～。学生開放は2001年3月～。料金は図書館で負担しています。」

在学生数とAcademicに接続できる学内のPCの数は？

「3万5000人(院生含む)。PCは約1,100台です。」

現在導入されております商用データベースは？

「一覧サイトがございますのでそちらをご覧くださいませ。」

インタビュー実施日：2003年12月3日